

平成16年度 事業状況報告書

財団法人 物理探鉱研究会

物理学的手法によって取得される地盤・岩盤情報の高精度化とその有効利用を核とした広範な地球システム工学関連の科学技術は、地下資源の探査・開発のみならず、建設・防災・環境など地質や地盤・岩盤が関係するすべての分野において必要不可欠なものであり、限りある地球を有効に利用して人類の持続的な発展を達成するために関連科学技術の高精度化とその効果的活用が各分野から強く要請されている。その要請に答えるために、関連技術の更なる研究開発とその有効利用を積極的に推進することが喫緊の課題である。

そこで、当財団法人は次に示す事項に重点を置き、研究的事業および研究成果の実用化を推進し、その普及に努めてきた。

- ◎ 地下資源開発および建設・防災・環境保全などに関連する地質・地盤の調査と評価のための、探査工学・地質工学・地盤工学・岩盤工学に関する基礎的・応用的研究の推進。
- ◎ 現場から寄せられる地下構造解明、地質・地盤の安定性の診断や防災対策などに関する諸問題を解決するための実際的な研究と助言。
- ◎ 開発された新技術の実用化の推進。
- ◎ 研究会・講習会などの開催。

平成16年度は、財団法人活動のさらなる活性化のために、各部門研究会が中心となって活動を展開し、地球システム工学の基幹分野の一つである地質工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する研究活動を活発に行なった。さらに、これまでの研究成果を踏まえ、地盤工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、講演会および研究会を開催するとともに、当財団法人のホームページの充実を行った。以下に本年度の活動状況を示す。

[1] 理事会、評議員会

「平成16年度第1回定例理事会」

平成16年6月11日、10:00~12:00、京大会館220号室、出席理事：6名。

「平成16年度第1回定例評議員会」

平成16年6月18日、10:00~12:00、京大会館217号室、出席評議員：15名。

「平成16年度第2回定例評議員会」

平成17年3月16日、15:00~17:00、京大会館219号室、出席評議員：15名。

「平成16年度第2回定例理事会」

平成16年3月22日、14:00~17:00、京大会館219号室、出席理事：6名。

[2] 部門研究会活動

当財団法人内に設置されている部門研究会である、地球統計学研究会・岩盤工学研究会・写真計測研究会・京都地盤研究会、が活発な研究活動を実施するとともに、講演会および研究会を開催した。

[3] 事業

1) 調査受託

調査受託は無かった。

2) 研究受託

6 件の研究を受託し、自主的及び公益的研究を実施した。以下に受託研究件名を簡略化して示す。

① 石垣画像の 3 次元座標データの抽出と変状解析に関する研究、② 斜面の安定度評価手法に関する研究、③ 3D-DDA による構造物に対する斜面落石の影響評価に関する研究、④ デジタル写真測量技術による変位計測システムの構築に関する研究、⑤ AE を用いた地下空洞安定性評価手法に関する研究、⑥ ステレオマッチング手法による画像データ解析に関する研究。

3) 研究会・講演会・講習会

1. 主催

今年度は部門研究会の一つである京都地盤研究会が下記の講演会・研究会を開催した。

①「京都地盤研究会特別講演会」、日時：平成 16 年 6 月 30 日、場所：京大会館（京都）、参加者数：40 名。

講演題目：リモートセンシング技術の地盤工学分野への活用の動向と展望

講演者：京都大学大学院 教授 田村 正行。

②「京都地盤研究会平成 16 年度第 1 回研究会」、日時：平成 16 年 10 月 4 日、場所：京大会館（京都）、参加者数：51 名。

題目と発表者：「トンネル工事の施工・計測技術の現状と将来を展望する」；(株) 演算工房 最高執行責任者 名村 均、「惑星開発におけるジオメカトロニクスの将来と地盤工学の課題」；立命館大学理工学部 教授 深川 良一、「京都の水害の危険性—地下浸水を中心として—」；京都大学防災研究所 教授 戸田 圭一。

③「京都地盤研究会平成 16 年度第 2 回研究会」、日時：平成 17 年 3 月 19 日、場所：京大会館（京都）、参加者数：52 名。

題目と発表者：「平成 16 年 新潟県中越地震の被害とその特徴」；応用地質（株）技術本部企画室 室長 大塚 康範、「斜面災害の予防—技術の現状と展望—」；太田ジオリサーチ 代表 太田 英将、「京都南部地域における道路計画」；国土交通省京都国道事務所 所長 東川 直正。

2. 共催

なし。

以上のように本年度は自主研究及び受託研究を実施するとともに、講演会および研究会を開催して、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・地盤工学・岩盤工学に関する研究および啓蒙・普及活動を積極的に行ない、関連する科学技術の発展に寄与するとともに有意義な多くの研究成果を得た。

[4] 活動収支決算

本年度の収支決算は別紙「平成 16 年度収支計算書」のとおりである。

以上